

注文票

注文FAX 048-432-7335		
氏名:	住所:	電話:
〒		
四六判上製 268頁 注文数 部 定価: 本体 2000円+税 2005年5月28日発行 日本僑報社刊行した主な書籍 中国人特派員が書いた日本 永遠の隣人 人民日報に見る日本人 日中相互理解とメディアの役割 あこのころの日本と中国(王泰平・魏京特編著) 従昭和劉平成 駐日十五年報道文集 東瀛八年 中国科技記者日本見聞 中国のインターネットにおける対日言論分析 日中「新思考」とは何か 中日関係に対する戦略的新思考 「対日新思考」論議の批判的検討 日中ホンネで大討論! 中国人の見た日本 中国人の日本奮闘記 中国の「対日新思考」は実現できるか		

大・陸・道・遙

一俳句と随筆で綴る体験的中国一

TBS 外信部長・元北京支局長 岩城浩幸・岩城敦子共著 日本僑報社 | ISBN 4-86185-007-X

目次

事の始まり
 日本語版に向けて
 本編
 酩酊散人篇
 晴雨篇
 林林先生訪問記
 断章・再見
 : あの日のこと (晴 雨)
 : その日のこと (酩酊散人)
 : 帰 国 (晴 雨)
 : その後のこと (酩酊散人)
 あとがき
 岩城さんご夫妻のこと (田建国)
 俳句作品一覧

著者略歴

◆岩城浩幸(酩酊散人)、一九五六年東京都生まれ、七八年早稲田大学政治経済学部政治学科卒業、同年 東京放送(TBS)入社、報道局社会部、政治部、外信部、編集部を経て、九一年から九五年まで北京支局長。帰国後、外信部デスク、JNNニュース編集長、「JNN報道特集」キャスターを経て、現在は外信部長兼報道局解説委員。
 ◆岩城敦子(晴雨)、一九五八年茨城県生まれ、八一年国立音楽大学教育音楽科卒業。

写真は2004年9月30日夜、北京市内から生中継で「日中記者物語」を放送する著者の岩城浩幸氏 段躍中 撮影



一方、いま様々な局面で表面化している日中間の問題は、夫々がお互いの姿を等身大で見えないからではないかと著者夫婦は指摘する。政治評論でも分析でもない本書が、何より明らかに問題の所在や原点が、この九〇年代にあったことを浮かび上がらせた。本書はもともと、著者夫婦の友人である中国人ビジネスマンが翻訳して中国で出版されることを目的に書かれた。中国でも異例且つ画期的な出版、その原作である。

【内容紹介】
 日中両国で特派員が交換されるようになって四十年、これまでに夫々の国に駐在した記者は五百人を超える。その中に、中国大陸の各地を逍遙しながら、見たまま聞いたまま、中国のありのままの姿を俳句と随筆で記録していた日本人記者夫婦がいた。時は九〇年代、中国が名実ともに大国に向けて舵を切り、猛然と進み始めた頃。経済協力、天皇訪中と日中関係も大きく変わり始め、同時にさまざまな摩擦も表面化し始めた。この時期、中国の一般市民は何を考へ、大陸の各地では何が見えたのか。散文によるスケッチは、ニュースでは伝えきれない現代中国の実像を鮮やかに描き出した。時に爆笑したり、苦笑したり、そしてほろりとさせられる筆致は、著者夫婦が中国の社会に素直に、そして深く溶け込んでいたことをうかがわせる。詩人で漢字俳句の第一人者である林林氏を夫婦で訪問し、新たな面で日中間の交流を模索した一幕も描かれている。